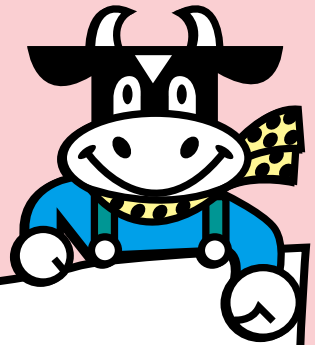




# ワンポイント・アドバイス



## キヤンサーアイについて

皆さんはキヤンサーアイという眼の病気をご存知ですか？この病気は牛の眼の粘膜に発生する扁平上皮癌です。

人間では喉、肺、子宮など多くの粘膜から（正式には重層扁平上皮）からこの扁平上皮癌が発生します。小動物で皮膚に発生する腫瘍の多くはこの扁平上皮癌です。

牛の扁平上皮癌で有名なのはキヤンサーアイです。教科書的には角膜からの発生が多いと述べられていますが、私が今まで見た中ではほとんどが瞬膜からの発生で角膜から発生しているのは2例しか見たことはありません（瞬膜とは眼の内側に見える白い膜）。この腫瘍は放置しておくとも腫瘍が眼粘膜から眼球全体に及び最後には眼が脱落します。眼が脱落するころには多量の膿汁が持続的に流れ出し、かなり痛々しい状態になります。腫瘍が眼球にまで浸潤するようになると治療方法は無く、眼球摘出しが方法はありません。進行が早いので早期の発見が必要です。簡単な外科的手術により治療が可能です。きれいに除所できれば再発

は稀です。

瞬膜に形成された初期のキヤンサーアイの手術方式はいたって簡単に麻酔処置をした後、腫瘍化した瞬膜を引き出し健康な部分で何箇所か結紮し大きめに腫瘍を除去するだけです。牛舎での手術が可能です。術後は少しの間は膿汁の排出が続き角膜が白濁しますが1ヵ月程度で回復します。



▲写真1

写真1を見てください。この牛は私が治療した瞬膜に発生したキヤンサーアイです、イボのような白い腫瘍が観察されます。この程度であれば腫瘍の基部から完全に摘出することが可能です。私が手術したものの多く

は眼の異常があると往診依頼されたものではありません。その他の病気で診察したときに発見したものです、この病気は食欲が低下するわけでもなく、また畜主の方もあまり牛の眼を注意深く見ることも少ないので病気の発見が遅くなるのかも知れません。皆さんも給餌するときなどにはたまに思い出して眼の粘膜を観察してみてください。



▲参照写真2

放っておくと大変なことになりますよ：  
「参照写真2」